

社会資本総合整備計画

遠野とのおまちなか再生地区（第2期）都市再生整備計画

岩手県 遠野とのお市

当 初 平成26年3月
第1回変更 平成29年1月
第2回変更 平成29年7月

(参考様式2) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金)

平成29年7月14日

計画の名称		遠野まちなか再生地区(2期)都市再生整備計画		交付対象	岩手県遠野市		重点配分対象の該当										
計画の期間		平成26年度～平成30年度(5年間)															
計画の目標		<p>官民一体による中心市街地の賑わい創出とみんなが豊かに暮らすことのできるやさしいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の賑わい創出による地域の活性化 高齢者や子育て世代でも快適に暮らすことのできる豊かな暮らしの創出 地域防災機能を備えた安全安心なまちづくり 															
計画の成果目標(定量的指標)		<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の観光施設等入込み数を 98,454人/年(H24)から100,000人/年(H30)に向上 まちなか歩行者数を 5,276人/日(H24)から6,000人/日(H30)に向上 遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の開催回数を 1回/年(H24)から3回/年(H30)に向上 															
定量的指標の定義及び算定式																	
まちなか観光施設の年間入場者数を算出。 まちなか観光施設の年間入場者数=遠野市立博物館、とおの物語の館、遠野城下町資料館3施設の年間入場者数の合計値により算出する。 まちなか歩行者を算出。 歩行者数算出方法=まちなかの6地点において、9月の平日1日・休日1日の歩行者通行量について通行量調査を実施し算出する。 遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の開催回数を算出。 防災訓練・講習会の開催回数=遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の年間実施回数。		当初現況値 (H24末)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H30末)			備考										
		98,454人/年	—	100,000人/年													
		5,276人/日	—	6,000人/日													
		1回/年	—	3回/年													
全体事業費		合計 (A+B+C+D)	1,039百万円	A	1,039百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)	0.0%				
交付対象事業																	
A 基礎事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
A-1	都市再生	一般	遠野市	直接	遠野市	遠野まちなか再生地区(2期)都市再生整備計画事業	遠野市民センター等 101ha	遠野市	H26	H27	H28	H29	H30	1,039	—		
合計												1,039					
B 関連社会資本整備事業(該当なし)																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
合計												0					
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	備考	
合計																	
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	備考	
合計																	
番号																	
一体的に実施することにより期待される効果													備考				

交付金の執行状況

(単位:百万円)

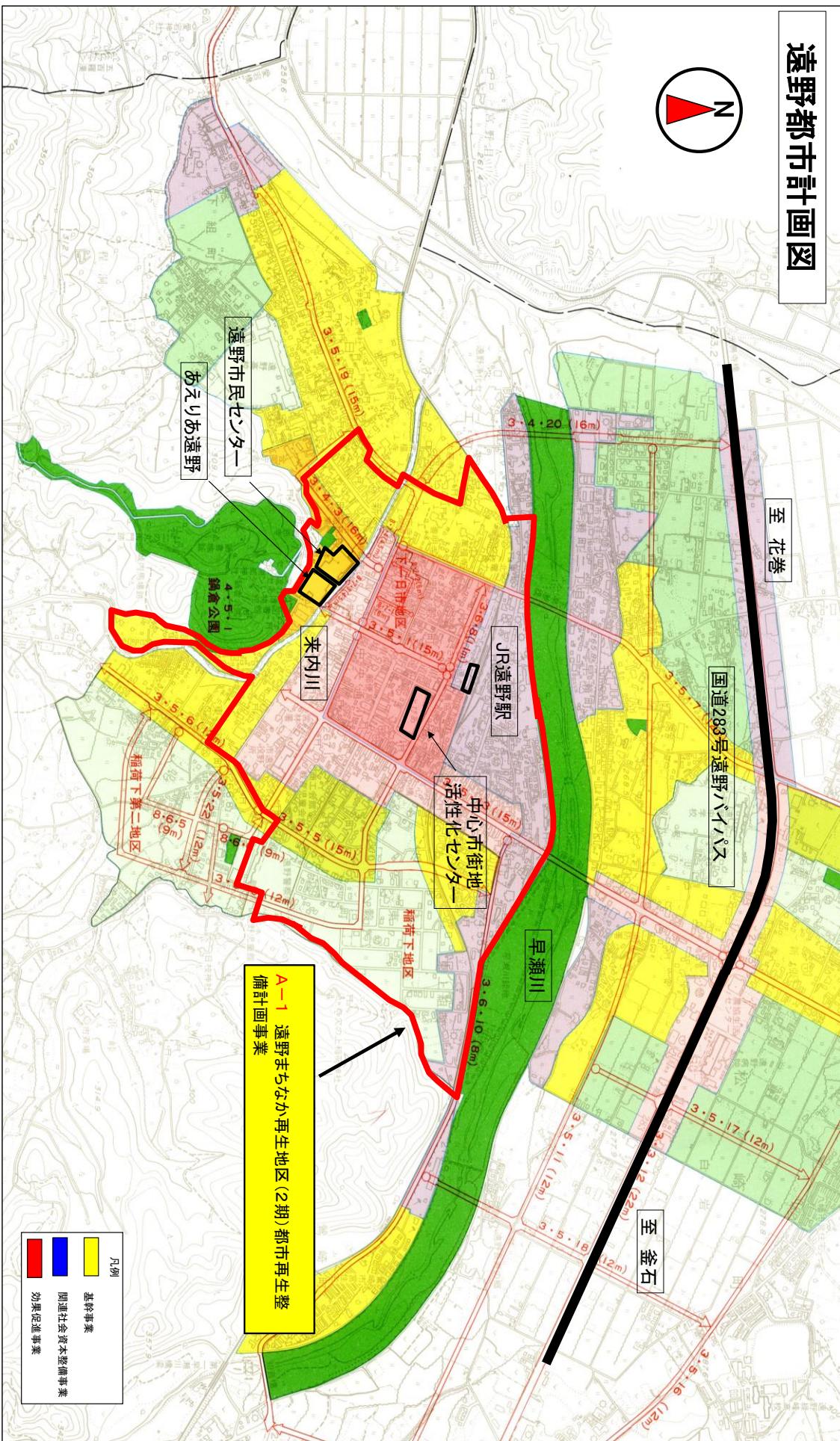
	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	92	171	24	0	
計画引当用 増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	92	171	24	0	
前年度からの繰越額 (d)	0	0	0	0	
支払済額 (e)	92	171	0	0	
翌年度繰越額 (f)	0	0	0	0	
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0	0	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	24	0	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	—	—	関係機関と の協議不調	—	

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	遠野まちなか地区(2期)都市再生整備計画	交付対象	岩手県遠野市
計画の期間	平成26年度 ~ 平成30年度(5年間)		

遠野都市計画図



A-1 遠野まちなか再生地区(2期)都市再生整備計画事業

- 凡例
- 基幹事業
 - 関連社会資本整備事業
 - 効果促進事業

社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称:遠野まちなか再生地区(第2期)都市再生整備計画 事業主体名:岩手県遠野市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

都市再生整備計画
遠野とのおまちなか再生地区(2期)
遠野とのおさいせい

岩手県 遠野とのお市

当 初 平成26年3月
第1回変更 平成28年11月
第2回変更 平成29年7月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岩手県	市町村名	遠野市	地区名	遠野まちなか再生地区(2期)	面積	101 ha
計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度				

目標

市民一体による中心市街地の賑わい創出とみんなが豊かに暮らすことのできるやさしいまちづくり

- 目標1: 中心市街地の賑わい創出による地域の活性化
- 目標2: 高齢者や子育て世代でも快適に暮らすことのできる豊かな暮らしの創出
- 目標3: 地域防災機能を備えた災害に強い安全安心なまちづくり

目標設定の根拠

- まちづくりの経緯及び現状
 - ・遠野市は、続日本記などによると、蝦夷の時代から集落が営まれ、その後安部氏、藤原氏、鎌倉時代の阿曾沼氏の時代を経て、藩政時代には遠野南部1万2千石の城下町として、また内陸部と沿岸部を結ぶ宿場町として栄えた。
 - ・本地域はJR釜石線の遠野駅を中心とする早瀬川の南西部に広がる古くからのまちで、藩政時代から都市形成されている中心市街地である。沿岸と内陸部を結ぶ要衝の地として栄え「馬三千・人三千」といわれた江戸の昔から市日の歴史があり、商いによる街の活性化が図られてきた。また、「民話のふるさと遠野」として知名度が高く、当地で語り継がれてきた民話・伝説の数々は、明治43年に柳田國男によって「遠野物語」として発表され広く世に認知されており、「遠野物語」及び日本民俗学発祥の地として、文化的資源を活用したまちづくりについても継続して取り組んできた。
 - ・しかし、昭和65年に県立遠野病院が郊外へ移転し、その後平成3年には国道283号線バイパスが開通するに伴い、沿線には広い駐車場を備えた全国チェーンの大型専門店が立地し、商業施設は中心市街地からバイパス沿いへの重心移転が続いたほか、車社会の進展とともに中心商店街では経営者の消費者ニーズへの立ち遅れ、後継者不足などともあいまって、空き店舗が増加し中心市街地の空洞化が深刻となった。
 - ・このため、平成10年に中心市街地活性化法の施行を機に、遠野市中心市街地活性化基本計画を策定し市と商工委を中心に3つのコンセプトについて取組んだ。
 - ① 中心市街地の都市機能の充実による賑わいの創出されるまち
 - ② 民話の里として、観光振興と消費者ニーズに合致したまち
 - ③ 中心市街地の生活者が愛着を持ち、自信をもって紹介できる生活拠点のまちづくり
 - ・また、平成20年からは1期目となる遠野まちなか再生地区都市再生整備計画、さらに平成21年には中心市街地活性化基本計画の認定を受けハード・ソフト両面からの中心市街地の賑わいの創出を目指してきた。整備内容としては、「とおの昔話村」を既存施設のバリアフリー化や以前に寄贈されていた町家や蔵を復元するなど新たな「とおの物語の館」としてリニューアルしたほか、駅前には観光案内や情報発信力を強化する目的で観光交流センター等のハード整備を実施。ソフト事業としては、平成22年に遠野物語発刊100周年の節目をむかえ市民一体の記念事業を展開した。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により施設改修の整備が遅れたほか訪れる観光客が伸び悩むなど事業効果については引き継ぎ検証が必要な状況にある。
 - ・そこで、中心市街地の賑わい創出をさらに加速させるため、1期目とこれまでに整備してきた施設を活かしつつ施設周辺を再整備することによって魅力的な中心市街地の形成を図るほか、東日本大震災の際に市民一丸となって展開した沿岸被災地後方支援活動により高まっている安全安心なまちづくりの形成を目指している。
 - ・このことから、平成24年10月にJR東日本から発表されたJR釜石線SL定期運行計画に併せ、地域振興及び交流人口の拡大を図ることを目的に「SL停車場プロジェクト推進室」を設置したほか、遠野駅前通りや中心市街地の再整備を図るため「まちづくり再生担当」の組織を起ち上げ2期目として取組むための推進体制の強化を図った。今後は、1期目で取り組んできたハード・ソフト両面の更なる醸成を目指し、引き継ぎ官民一体で事業推進を図っていく。
 - ・東日本大震災で全壊した市役所本庁舎の復旧に併せた公共施設の再配置・複合的施設運営手法や空洞化が進む空き店舗・空き家等の有効活用策についても現在検討している。

課題

- ・SLの定期運行が予定され観光客の増加が期待できることから、観光施設や商業施設の集客力向上にむけた区域内全体の魅力の醸成が課題となっている。
- ・急激に進んでいる少子高齢化に対応した中心市街地機能の再構築が課題となっている。
- ・遠野市民センターは震災時において大型収容施設としての機能を持ち合わせた施設であり、東日本大震災の際にも避難所受入や吹き出しの拠点となった。しかし、東日本大震災の教訓から防災機能の更なる機能の補完が課題となっているほか、昭和46年の完成から約40年が経過しているため耐震補強が急務となっている。

将来ビジョン(中長期)

- 平成18年10月に策定した遠野市総合計画に位置づけられている、「おもしろさ」と「やるき」を感じる元気ある産業のまち、「ぬくもり」と「もてなし」の心でつくる交流のまち」として、まちなかに賑わいを創出するため、下記について推進する。
- ① 商業と観光が融合する充実した取り組みを推進する。
- ② 高齢者の日常生活や子育ての環境改善を支援する。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	
中心市街地の観光施設等の入込み数	人/年	遠野市立博物館、遠野物語の館、遠野城下町資料館3施設の年間入場者数の合計値	98,454人/年	24	100,000人/年	30
まちなか歩行者数	人/日	まちなかの6地点において測定した、9月の平日1日・休日1日の歩行者通行量	5,276人/年	24	6,000人/年	30
防災訓練・講習会の開催回数	回/年	遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の年間実施回数	1回/年	24	3回/年	30

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(中心市街地の賑わい創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠野駅前通りを再整備し、魅力的な景観形成を図る。 	<p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(情報板):遠野駅前通りポケットパークサイン整備 ・高質空間形成移設:県道遠野停車場線他電線無電柱化 <p>提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業(まちなか回遊マップ作成事業):まちなか各施設
<p>整備方針2(快適に暮らすことのできる豊かな暮らしの創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケットパークを整備し、高齢者等の歩行者が気軽に休憩できる顔の場所を創出する。 ・市道新穀町通り線の歩道に融雪装置を設置し、冬期間の圧雪、凍結による歩行時の不安解消を図る。 	<p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路:市道新穀町通り線 ・地域生活基盤施設(情報板):遠野駅前通りポケットパークサイン整備
<p>整備方針3(災害に強い安全安心なまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道新穀町通り線の舗装融雪化にあわせ、地中内の老朽化した給水管を更新する。 ・遠野市民センター施設の耐震補強改修を実施するとともに防災機能の強化を図る。 	<p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(地域防災施設):遠野市民センター改修事業 <p>提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業(給水管更新事業):市道新穀町通り線 <p>地域創造支援事業(遠野市民センター改修事業):遠野市民センター</p> <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による複合的施設再配置・運営と防災・減災まちづくり調査
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遠野スタイルによるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○当市がまちづくりの基本理念として掲げる「遠野スタイルの創造」に取組む。 遠野スタイル・・・「地域の特性や資源を活かすこと」、「市民が主体性を持つこと」、「自分のまちをより良くしよう」と行動すること ○事業終了後の継続的なまちづくり <ul style="list-style-type: none"> まちづくりは終わりのない市民運動そのものであることから、関係機関のみならず地域住民、市外の遠野ファンを巻き込み、PDCAの検証を常に意識しながら目標達成に取り組む。 ○平成25年度震災復興官民連携支援事業補助金(国土交通省総合政策局官民連携政策課所管)を活用したまちづくりに取組む。 「官民連携による複合的施設再配置・運営と防災・減災まちづくり調査」として、震災で全壊した市役所本庁舎中央館の復旧に加えて公共施設の再配置と複合的な施設の運営を行う官民連携手法を検討するほか、庁舎周辺における防災・減災まちづくりと連動した市街地整備と地域振興・活性化の実現に向けた官民連携手法について検討する。 	

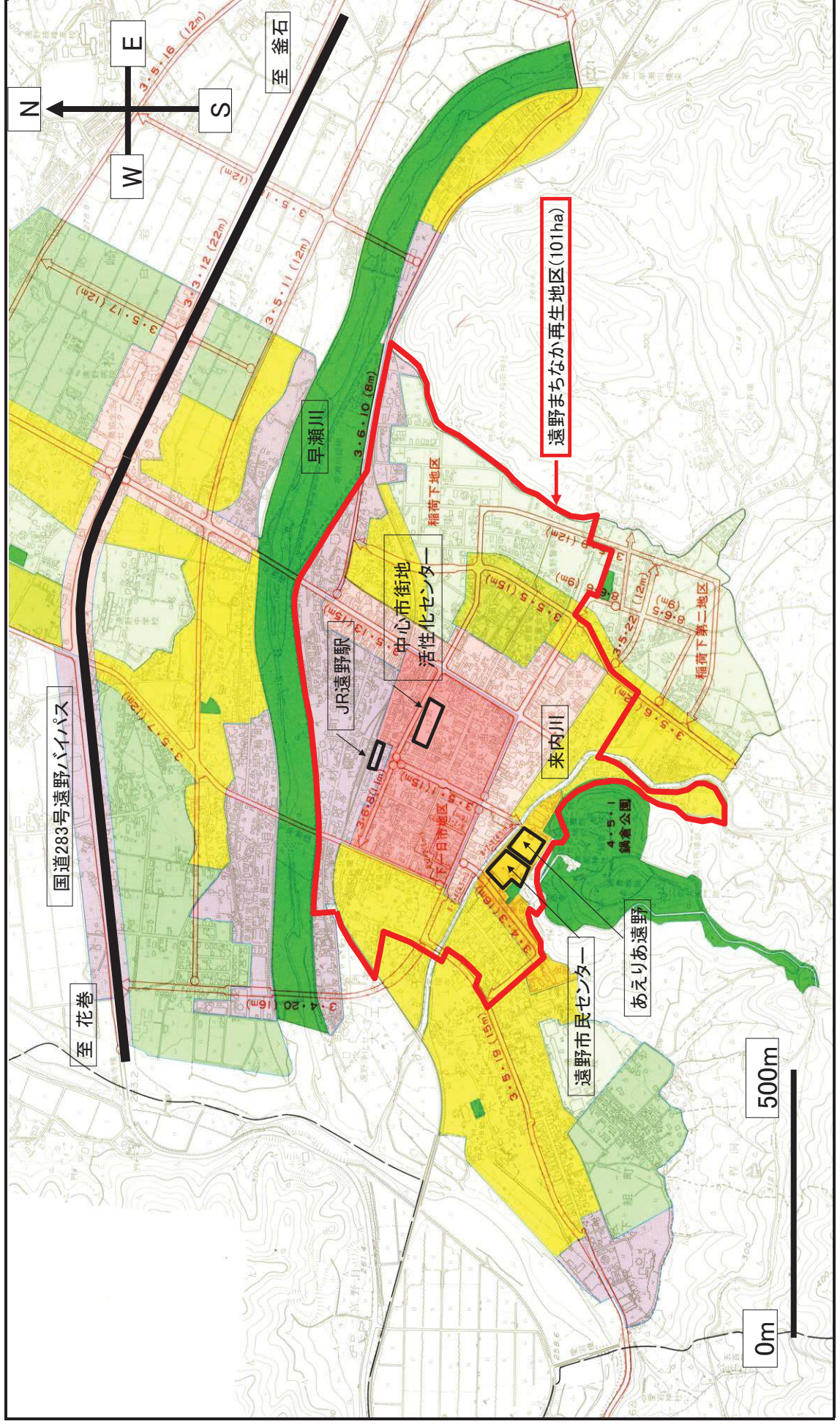
都市再生整備計画の区域

遠野まちなか再生地区(2期)(岩手県遠野市)

面積

101 ha

区域 一日市・遠野駅前通り・新穀町・仲町・穀町・石町・上組町・大工町・材木町・東館町



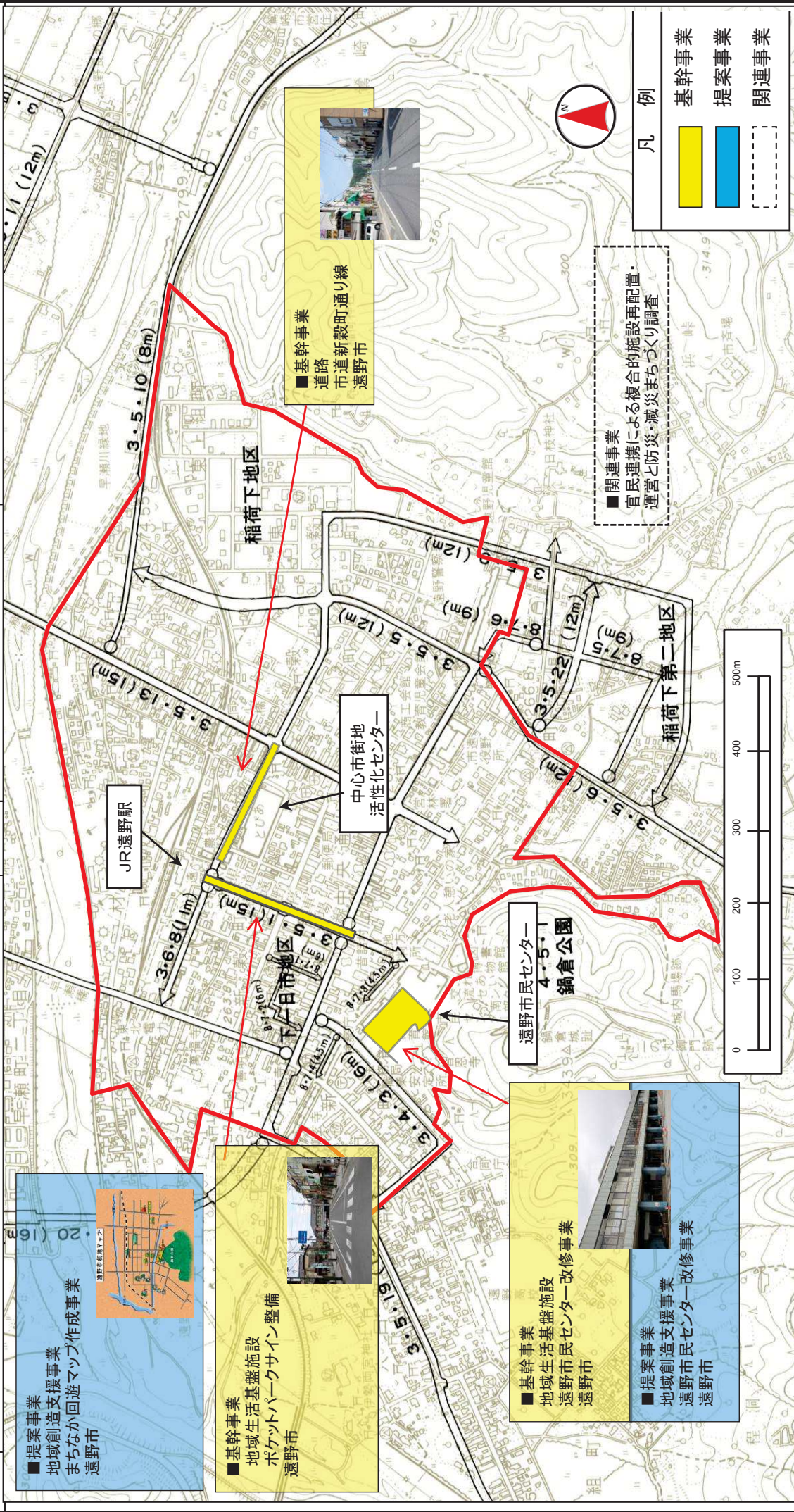
とおの

さいせいちく

いわてけんとおのし

遠野まちなか再生地区(2期)(岩手県遠野市)整備方針概要図

目標 官民一体による中心市街地の賑わい創出とみなが豊かに暮らすことのできるやさしいまちづくり 目標1: 中心市街地の賑わい創出による地域の活性化 目標2: 高齢者や子育て世代でも快適に暮らすことのできる豊かな暮らしの創出 目標3: 地域防災機能を備えた災害に強い安全安心なまちづくり	代表的な指標 中心市街地の観光施設等の入込み数 (人/年) → 98,454 (24年度) → 100,000 (30年度) まちなか歩行者数 (人/日) → 5,276 (24年度) → 6,000 (30年度) 防災訓練・講習会の開催回数 (回/年) → 1 (24年度) → 3 (30年度)
--	---



■提案事業
 地域創造支援事業
 まちなか回遊マップ作成事業
 遠野市

■基幹事業
 地域生活基盤施設
 ポケットパークサイン整備
 遠野市

■基幹事業
 地域生活基盤施設
 遠野市民センター改修事業
 遠野市

■提案事業
 地域創造支援事業
 遠野市民センター改修事業
 遠野市

■基幹事業
 道路
 市道新穀町通り線
 遠野市

■関連事業
 官民連携による複合的施設再配置・運営と防災・減災まちづくり調査